

ミハル・カニユカ ピアノ・トリオ・プロジェクト



©大杉隼平

ピアノ:伊藤 恵
(東京藝術大学教授)



©Naoya Yamaguchi, Studio Diva

ヴァイオリン:漆原朝子
(東京藝術大学教授)



チェロ:ミハル・カニユカ
(ブラハの春国際音楽コンクール会長
ブラハの春国際音楽祭芸術委員)

- ◆ハイドン:ピアノ三重奏曲ト長調 Hob.XV-25 「ジプシー・トリオ」
- ◆ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 op.97 「大公」
- ◆ドヴォルザーク:ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調 op.90 「ドゥムキー」

これは1994年に行われた「ベルリン・ピアノ・トリオ 日本ツアー」のプログラムを再現したものである。ベルリン・ピアノ・トリオはトーマス・ブランデイス、ヴォルフガング・ベッチャー、荒憲一によるアンサンブルでこの年、大阪センチュリー交響楽団定期での協奏曲演奏を含む7公演に及ぶ日本公演を行った。KCMの設立は1997年なので、これはそれに先立つ3年ほど前のことになるのだが、このプロジェクトこそが、KCM創業へと繋がる重要な端緒となったため、すでに故人となってしまったアーティスト達への感謝と哀悼の意を込めて25周年を記念することとする。

実施可能期間=2022年11月28日~12月10日

制作協力:KAJIMOTO

伊藤 恵 (ピアノ)

ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ライグラフ氏に師事。

1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初優勝。サヴァリツシュ指揮バイエルン国立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響との協演、各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍。

CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアナ1~13」。2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。

さらに、2008年にリリースを開始した「シューベルト ピアノ作品集1~6」は1作ごとに注目を集め、第6集は2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。最新盤は「ショパン/24の前奏曲、シューマン/クライスレリアーナ」。

また、サイトウ・キネンフェスティバル松本はじめ武生国際音楽祭、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加。2008年からの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。

漆原朝子 (ヴァイオリン)

東京藝大付属高等学校在学中に日本国際音楽コンクールで最年少優勝。ジュリアード音楽院卒業。88年N響定期公演デビュー、ニューヨークでリサイタルデビューし絶賛を博す。マールボロ音楽祭でルドルフ・ゼルキン等と共演、ザルツブルク音楽祭などにも登場。

2003年以後 シューマンとブラームスのヴァイオリンソナタ全曲ライブCDを相次いでリリースして極めて高い評価を得る。

06年にはシューマン没後150周年を記念してヴァイオリンソナタ全曲演奏に加えて、大阪(現 日本)センチュリー響と遺作のヴァイオリン協奏曲を演奏し注目と賞賛を得る。08~09年にはベリョフ・スナイダー、ロータス・カルテットと共に『シューベルト:ヴァイオリン作品全集』をレコーディング。B.スナイダーとは20年以上にわたって

デュオを組んでおり、09年にオール・シューベルト、10年には生誕200周年記念シューマン・プログラムなどテーマ性をもったリサイタルツアーをその後13・15年にも行った。また、12~13年には東京と大阪でベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ全曲ツイクルス(ピアノ=鈴木慎崇)を行い、聴衆にひととき深い感銘を与えた。

近年では、大作エルガー:ヴァイオリン協奏曲を指揮者ジョセフ・ウォルフと共に2013年広響定期、2015年群響定期・東毛定期、2017年 兵庫芸術文化センター管定期(三公演)で共演を続けており、兵庫での演奏はライブレコーディングCDとしてリリースされて話題となり各方面より高評を得ている。平成26年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。現在、東京藝術大学教授、大阪音楽大学特任教授。

ミハル・カニユカ (チェロ)

1960年ブラハ生まれ。ミルコ・シユカンパの指導により7歳でチェロを始め、ブラハ音楽院でヴィクトル・モウチュカ(ヴァイオリン四重奏団)の下で研鑽を積む。ヨセフ・フッフロ(スーク・トリオ)の下で学んだブラハ芸術アカデミー時代の1983・84年には、グレゴール・ビヤティゴルスキー・セミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエらの指導を受けた。

1980年ブラハの春国際音楽コンクールで名誉賞受賞。翌年、チェコスロヴァキア(当時)国内コンクールでグランプリを獲得。1982年チャイコフスキー・コンクール、1983年ブラハの春国際音楽コンクール(第1位)などで上位入賞を果たす。1986年にはミュンヘン国際音楽コンクールの勝者となった(第1位なしの第2位)。カニユカは、チェコ・フィル、ブラハ放送響、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ローザンヌ室内管、ブラハ室内管、ブラハ室内フィルなどのトップ・オーケストラとも共演を重ね、リサイタルも世界各国で開いてきた。

また、ブルノ・フィルでは1995年以来定期的にソリストとして客演を続け、ブラハ放送響では2003年から指定ソリストとして活躍している。

その演奏は放送で度々紹介されていることはもちろん、CDも多数リリースしており、いずれのレコーディングも数々の受賞を得るなど極めて高く評価されている。室内楽分野でもその活動は精力的だ。ブラジャーク・クワルテット、ベートーヴェン弦楽トリオのメンバーとして、世界中の主要なコンサートホールに立ち、数々のCDを録音している。

使用楽器はフランスのクリスチャン・バヨン2006年製で、同じくフランスのニコル・デュシュリュエ2000年製の弓を使用する。

現在、ブラハの春国際音楽コンクール会長、ブラハの春国際音楽祭芸術委員などの要職を務めており、まさにチェコを代表する音楽家として揺るぎない評価と地位を獲得している。

お問い合わせ/コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733 / 090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp